

浦河町「長寿桜」の樹勢回復・その3

1 はじめに

長寿桜は、浦河町西舎の「優駿さくらロード」の奥にあるJRA日高育成牧場の敷地内にある大山桜です。JRA日高育成牧場の事務所は、旧農林水産省の日高種畜牧場の敷地にあり、この日高種畜牧場は、戦後間もない1947年（昭和22年）に開設された「農林省日高種畜牧場」が嚆矢で、その前身は、1907年（明治40年）の「日高種馬牧場」まで遡ります。

長寿桜は、この牧場の開設直後の明治末期に植栽されたものとすれば、百年を越す桜ということになります。

この桜の傍らにある「うらかわの名木 第3号」の標識によると、幹周は305cm、樹高8.5mで、「毎年この桜を訪れ、幹を抱きパワーをもらって長生きした」というエピソードから、「長寿桜」と呼ばれるようになった、とのこと。



長寿桜

2023.05.01



長寿桜

2023.05.01

2 長寿桜の樹勢回復措置

長寿桜は、金田正弘樹木医や当社などで、2020年（令和2年）11月18日、2022年（令和4年）11月18日に、主に割竹縦穴式土壤改良法及び縦穴式土壤改良を内容とする樹勢回復措置を行っています。

当社樹木医の木戸口和裕が2023年（令和5年）5月1日に長寿桜の開花状況を見ると、まずまずの花着きでした。2022年の樹勢回復措置は花芽形成後に行っているため、今回の開花に影響していませんが、2020年の樹勢回復措置がいくぶん効いているのではないかと考えられました。

次に、木戸口が8月25日に開葉状況を確認したところ、8月下旬であるにもかかわらず、既に紅葉、落葉が一部見られました。長寿桜は、木材腐朽菌による内部腐朽が進み、樹勢の衰え傾向を示しており、これに2023年夏の記録的な暑さが紅葉等に拍車をかけたと思われる。

このようなことから、3回目の樹勢回復措置が必要と考え、金田正弘樹木医に相談し、2023年（令和5年）11月14日に行いました。



長寿桜

2023.08.25



長寿桜

2023.08.25

作業の参加者は、樹木医金田正弘氏、ご子息金田紘幸氏と木戸口の計3名です。作業内容は次のとおり。

- ①穴あけ器によるエアレーション
- ②アースオーガーによる割竹縦穴式土壤改良法及び縦穴式土壤改良法
- ③日高産堆肥等を縦穴や根域全体への散布
- ④縦穴表面に上記③充填後にフジミン Forest 等の散布
- ⑤枯損枝落とし

今回の樹勢回復では、①のエアレーションを根域全体的に徹底的に行い、細根への酸素の供給を行ったこと、②では、縦穴式土壤改良法よりも割竹縦穴式土壤改良法を重点的に行ったこと、です。

穴あけ器によるエアレーション、アースオーガーによる縦穴掘削の手応えとしては、過去の割竹縦穴式土壤改良法等が効いているようで、キックバックが少なく、掘削土は柔らかく変化していました。



エアレーション 2023.11.14



アースオーガーによる掘削 2023.11.14



縦穴へのフジミン®Forest 等の散布 2023.11.14



枯損枝落とし 2023.11.14

3 終わりに

長寿桜の二本の主たる幹のうち、特に北側にある主幹に属する一部の枝の上部にはコフキササルノコシカケと思われる子実体があり、木材腐朽菌による内部腐朽が進んでいることを示しています。2022年にもこの子実体を確認しているので、この幹は枯損及び倒伏によって樹形が大きく変わる可能性があると思われます。

しかしながら、縦穴式土壤改良法等によって、縦穴部分だけでなく、根域全体に広がるようにミミズや土壤微生物の活動の活発化を促せば、気根、ヒコバエ、胴吹きによる新たな幹等の形成を通した再生は、可能であると思っています。

作業は11月14日に終了していますが、「秋の夕日は釣瓶落とし」で、全景の完了写真は、翌朝撮影しています。今回の作業は、この桜への「寒肥え」でもあるので、その成果として、2025年の開花に注目したいと考えています。



コフキササルノコシカケと思われる子実体 2023.11.14



長寿桜・樹勢回復措置完了状況 2023.11.15